

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University  
京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室

# 第2回科学者京都会議

## 新聞報導 祝電等

TRADE MARK  
NO. 3001



c092-008

No. ....

5月7日

中国 (5月7日)

# きょうから科学者会議

竹原市

## 社会的責任など討議

### 原潜寄港にもふれる？

【核戦争による人類の破壊を防ぐために科学者はどうあるべきか】をテーマに、日本の科学者、知識人のトップクラスを集めた「科学者京都会議」の第2回の会合が、七日から三日間竹原市の佐々木ホテルで開かれる。集まるのは会議の提唱者である湯川秀樹京大基礎物理学研究所長(物理学) 朝永振一郎学術会議会長(同) 坂田昌一名古屋大教授(同)の三氏をはじめ、人文系の学者、知識人を含めた計十一人と同会議事務局長豊田利幸立教大教授。このなかには地元広島大から元理論物理学研究所長三村剛昂名誉教授、理学部・素粒子論専攻の佐久間澄教授のふたりがいる。原潜力潜水艦の寄港をめぐる、学術会議と政府の見解が真向から対立し、改めて「科学者の平和への責任」がクローズアップされている。この会議の行く先は注目されている。

こんどの会議は前回の声明に基づき、から生まれてきた諸問題を討議する。議題は①キューバ危機以後の水艦の日本寄港問題やスリジャ、②世界情勢の急変、③科学者の社会的責任の三つが柱となる。学術会議と政府の見解が真向から対立し、改めて「科学者の平和への責任」がクローズアップされている。この会議の行く先は注目されている。



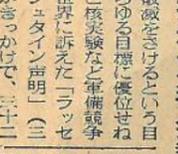
湯川秀樹京大教授



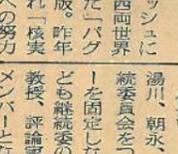
朝永振一郎教育大学長



坂田昌一名古屋大教授



佐久間澄広島大教授



三村剛昂広島大名誉教授

非公開で行なわれ、七日から九日午前中まで三議題について報告、討議があり、九日午後会場を広島市に移して出席者全員が記者会見し、会議の成果を発表する。このあと午後六時半から広島市公会堂で「平和を創造するための学術講演会」が催される。講演は湯川氏「科学者の社会的責任」朝永氏「バグウォッシュ運動」末川氏「平和憲法と科学者の任務」の三つだが、これは同会議が第一回の非公開討議方式から一歩ふみ出して、直接一般市民に呼びかける姿勢を示すもの。三提唱者以外の出席者約五十人。

### 科学者京都会議とは

「全体的破壊をさける」という目標は他のあらゆる目標に優先せねばならぬ」と核実験など軍備競争の厳かさを世界に訴えた「ラッセール・アインシュタイン声明」(一九三二年七月)がきっかけで、三十二年七月カナダのバグウォッシュに湯川、朝永両氏を含む東西世界の科学者が一堂に集まった「バグウォッシュ会議」の日本版。昨年五月第一回が京都で開かれ、核実験競争の即時停止と軍備削減への努力を呼びかけた。湯川、朝永、坂田の提唱三氏が継続委員会をつくるだけで、メンバーを固定しないのが特徴。こどもも継続委員の三氏と三村大名誉教授、評論家のほかは全部新しいメンバーとなっている。

中国 (5月7日)

# 平和の諸問題討議

## 湯川氏ら11人が出席



湯川博士(中央)の開会あいさつ—科学者京都会議の会場(竹原で)

### 竹原(島)で「科学者会議」開く

【竹原】日本のトップレベルの科学者、知識人が一堂に集まって、核戦争による人類の破滅を防ぐために話し合う第二回科学者京都会議が、七日朝竹原市佐々木ホテルで開かれた。

前日どうって変わった好天気。会場からは、陽光のなかに点々とした鳥々が見おろされる。静かに話しあうには絶好の環境である。開会時の九時半定刻に会議提唱者の湯川秀樹(京大基礎物理学研究所長)朝永振一郎(学術会議会長)坂田昌一(名大教授)の三氏をはじめ十一人全員が顔をそろえ、ひとしきりカメラマンのフラッシュを浴びたのち、議題に入った。

湯川氏が開会のあいさつのおと地元の元広大理論物理学研究所長三村剛昌氏が議長になり、第一テーマの「キューバ以後の世界情勢」について田中慎次郎氏(評論家)が「地域的安全保障と対応込め政策との関連性」と題し報告し、これらについてワットーキングを行なった。

午後第二テーマの「アジアの中の日本」について久野武吉(京大基礎物理学研究所長)が議長となり、前日についで「アジアの中の日本」について江口林郎東大教授が「世界史の中

の問題野上茂吉東大教授の「アジア科学者会議の可能性」がそれぞれ報告され討論した。

八日は午前中、前日についで「アジアの中の日本」について江口林郎東大教授が「世界史の中

の報告、討論がある。

マ「科学者の社会的責任」について、久野氏が「職業倫理と市民倫理」坂田氏の「組織の問題」の二つの報告、討論がある。



毎日(5月7日)

### 私の いいこと

○きょう七日の三日間、この

竹原で第二回科学者京都会議が行なわれ、核戦争による人類の絶滅を避けるために科学者はなにをなすべきかを国際情勢や日本の立場などからディスカッションをす



科学者京都会議に寄せて  
三村剛昂

福に最も関係深い「大暴力退放」についての討論会なのだ。  
○一般市民の目には小暴力のよ

が市民の立場にも立って討議するの

る。そこで科学者の社会的責任の問題がクローズアップされたわけだ。

のこをいっている。バグワッシュ会議以来、平和への努力を重ねて

毎日(5月7日)

## きょうから竹原市で

### 科学者 会議 湯川博士ら12人出席

第二回科学者京都会議はきょう七日から三日間竹原市竹原町の湯川博士ら12人が出席した湯川博士らを中心とする人類の絶滅を避けるにはどうしたらよいかについて討議する。

これは一九五六年、バートランド・ラッセル卿、アインシュタイン

博士の提唱でカナダのバグワッシュで開かれた平和のための科学者会議のついで、バグワッシュ会議に出席した湯川博士らを中心

所があり、同市居住の理論物理学界の長老、三村剛昂博士(広

中の日本の科学者の社会的責任となつてゐるか、原子力潜水艦寄港問題など当面の具体的な課題も含め核兵器製造に直接寄与することのできる科学者が、核兵器禁止への行動を示すことかこんどの会議で強調されるものとみられる。

湯川秀樹(京大) 朝永振一郎(東京教育大) 坂田昌一(名大) 末川博(立命館大) 佐久間遊(三村剛昂(京大) 久野収(学習院大) 江口朴郎、野上茂吉郎(京大) 豊田利幸(立教大) 三宅泰雄(東京教育大) 田中慎次郎(評論家)



科学者京都会議 中央は湯川氏、【左列】奥から三村、田中、久野、江口、坂田、野上、豊田氏【右列】奥から末川、朝永、三宅、佐久間の諸氏。

読売 5/7

# 第二回科学者京都会議開く

広島県竹原で

## 「キュバ」以後の情勢など

### 「三テーマ」を柱に討論

【竹原電】バグウォッシュ会議の日本版「第二回科学者京都会議」は七日午前九時四十分から広島県竹原市の「佐々木ホテル」で開かれた。出席者は湯川秀樹、朝永振一郎博士ら理論物理学者を中心に十三人。九日までの三日間「キュバ以後の世界情勢」「アジアのなかの日本」「科学者の社会的責任」の三テーマについて討論する。

第一回会議は昨年五月七日から三日間、宮原市で開かれ「核戦争と人類」「全面完全軍縮と経済」「科学時代の道徳」「世界平和と日本」をテーマに十二人の科学者、作家、評論家に参加して討論した。この会議で「核実験禁止協定を一日も早く結べ」と六項目のアピールを盛り込んだ声明書を発表、世界各国の政府、科学者らに呼びかけるとともに昨年八月と九月、ロンドンで開かれた第九、十回バグウォッシュ会議に出席した湯川博士のあいさつについて午前中は

三村広大名誉教授を座長に、まず「キュバ以後の世界情勢」を取り上げ、田中慎次郎氏が「地域的安全保障と結び込め政策との関連性について」説明した。午後は二時から久野収学芸院大教授が座長となり「アジアの中の日本」をテーマに、佐久間澄夫大教授が「アジアにおける戦争と平和の問題」野上茂吉東大教授が「一つの思考実験としてのアジア科学者会議の可能性」について提案する。八日は午前中が「アジアの中の日本」

午後には「科学者の社会的責任」を討議。最終日の九日は午前中全体討論を行なったのち、午後二時竹原駅発車「きび」で広島に向かい、午後四時から広島市平和公園内の新広島ホテルで会議の結果を公表し、午後六時半からは広島市公会堂で一般市民を対象に「平和を創造するための学術講演会」を開く。

【出席者】湯川秀樹(京大、理論物理学)▽朝永振一郎(東京教育大、理論物理学)▽坂田昌一(名古屋大、理論物理学)▽江口朴郎(東大、史学)▽末川博(立命館大、憲法)▽野上茂吉郎(東大、理論物理学)▽久野収(学習院大、哲学)▽三村剛郎(京大、理論物理学)▽佐久間澄夫(京大、理論物理学)▽田中慎次郎(評論家朝日)▽三宅泰雄(東京教育大、理論物理学)▽富田利幸(立教大、理論物理学)▽高木修(京大、理論物理学)

バグウォッシュ会議とは一九五五年イギリスのパーランド・ラッセル勲と故アイゼンハワー博士が「核兵器の発表によって重大な危機に直面した人類文化を救うため、世界の科学者が自由な立場で話し合おう」と呼びかけたのがきっかけで五五年七月、カナダのバグウォッシュで第一回の会議を開いたのがはじまり。第一回は日本から湯川秀樹、朝永振一郎博士が出席したが「核兵器による全体的破壊を避ける」という目標は他のあらゆる目標に優先しなければならぬ」との「インシニエーション」の立場から昨秋(ロンドン)までに十回の会議が開かれている。

【竹原電】バグウォッシュ会議の日本版「第二回科学者京都会議」は七日午前九時四十分から広島県竹原市の「佐々木ホテル」で開かれた。出席者は湯川秀樹、朝永振一郎博士ら理論物理学者を中心に十三人。九日までの三日間「キュバ以後の世界情勢」「アジアのなかの日本」「科学者の社会的責任」の三テーマについて討論する。

【出席者】湯川秀樹(京大、理論物理学)▽朝永振一郎(東京教育大、理論物理学)▽坂田昌一(名古屋大、理論物理学)▽江口朴郎(東大、史学)▽末川博(立命館大、憲法)▽野上茂吉郎(東大、理論物理学)▽久野収(学習院大、哲学)▽三村剛郎(京大、理論物理学)▽佐久間澄夫(京大、理論物理学)▽田中慎次郎(評論家朝日)▽三宅泰雄(東京教育大、理論物理学)▽富田利幸(立教大、理論物理学)▽高木修(京大、理論物理学)

バグウォッシュ会議とは一九五五年イギリスのパーランド・ラッセル勲と故アイゼンハワー博士が「核兵器の発表によって重大な危機に直面した人類文化を救うため、世界の科学者が自由な立場で話し合おう」と呼びかけたのがきっかけで五五年七月、カナダのバグウォッシュで第一回の会議を開いたのがはじまり。第一回は日本から湯川秀樹、朝永振一郎博士が出席したが「核兵器による全体的破壊を避ける」という目標は他のあらゆる目標に優先しなければならぬ」との「インシニエーション」の立場から昨秋(ロンドン)までに十回の会議が開かれている。

No. ....

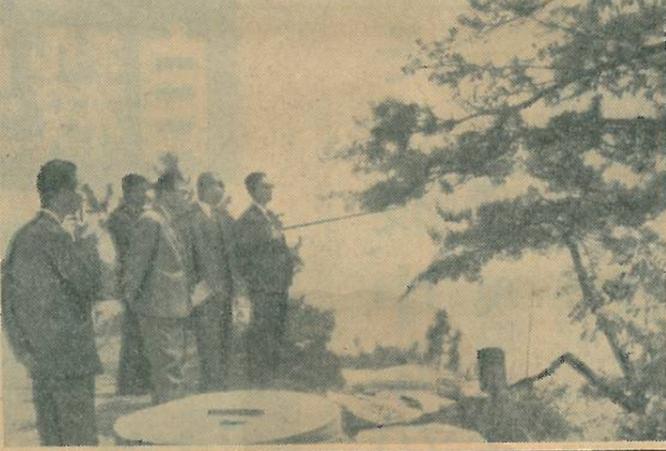
5月8日



# 内海の景色を満喫

## 昼休みに記念撮影も

竹原の科学者 京都会議

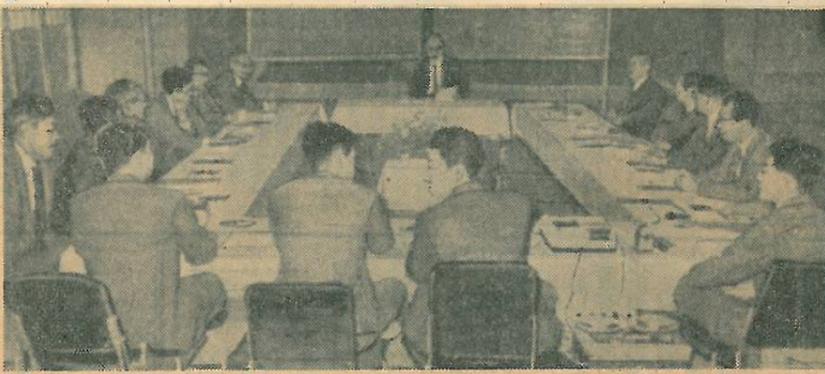


授(前同研究所長)の案内で訪れたが、途中記者の「会議が開かれるところになったのはこの場面に事務局の豊田立教大教授は「三村博士の郷里、それに静かでないから」と答えたが、そばにいた末川立命館大教授は「池田さんの郷里だから選んだのではないですよ。…」と池田さんの科学振興に対する施策はまた、ひとつカマを

いれよといわれたい...この一部のうらやまを笑はしていた。○：研究所では所員をばけしたり、所内の庭で島々を背景に記念撮影のカメラをばけたり、芝生に腰をおろして内海の景色を満喫していた午後一時、かきり会議に移った。

日本の頭脳といわれる湯川博士ら科学者十三氏が参加、七日から十日高野町佐々木ホテルで開かれた第二回科学者京都会議は静かな空気のなかで進められた。

○：前日までのくすついたお天気がもたらした晴れあがり、会議場を取り巻く木々の緑もさやか。海を行きかう漁船の姿もどこか会議の精神「平和」を護るのにぴったり。朝永博士は「景色はちよつとバグウォッシュ(世界の科学者が最初に集まり平和の道を語った)の心で進めたい。町なみもどけるからだ」と笑って入って



# 科学者京都会議 竹原で

## 第二回会議ひらく 原子力潜艦寄港など討議

【竹原発】バグウォッシュ会議の定を一日も早く結ぶと大項目の日本版「第二回科学者京都会議」は七日午前九時四十分から広島県竹原市の「佐々木ホテル」で開かれた。出席者は湯川秀樹、朝永振一郎博士ら理論物理学者を中心に十三人。九日までの三日間「アジアの中の日本」科学者の社会的責任のテーマについて討議する。

第一回会議は昨年七月七日から三日間、京都市で開かれ「核戦争と人類」「全面完全軍縮と経済」「科学時代の道徳」「世界平和と日本」をテーマに十二人の科学者、作家、評論家が参加して討議した。この会議で「核実験禁止協

七日は午前九時四十分開会、湯川博士のあいさつについて午前中は三村広大名誉教授を議長に、まず「バグウォッシュ」以後の世界情勢を取り上げ、評論家の田中慎次郎氏が、地域的安全保障と封じ込め政策との関連性」を説明した。午後は一時から久野取学富院大教授が議長となり「アジアの中の日本」をテーマに、佐々木大教授が「アジアにおける戦争と平和の問題」野上茂吉郎大教授が「一つの思考実験としてのアジア科学者会議の可能性」について提案した。八日

## 原子力潜艦寄港など討議

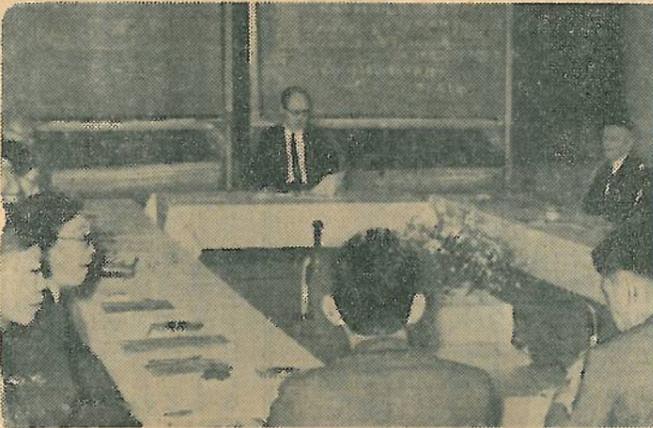
【出席者】湯川秀樹(京大、理論物理学)▽朝永振一郎(東京教育大、理論物理学)▽坂田昌一(名古屋大、理論物理学)▽江口朴郎(東大、史学)▽末川博(立命館大、民法)▽野上茂吉郎(東大、理論物理学)▽久野取(学習院大、哲学)▽三村剛郎(広大、理論物理学)▽佐久間海(広大、理論物理学)▽田中慎次郎(評論家)▽三宅泰雄(東京教育大、理論物理学)▽豊田利幸(立教大、理論物理学)▽高木修二(京大、理論物理学)

Hiroshima University

# 世界平和話し合い

## 竹原市で『科学者京都会議』

【竹原】学界やマスコミ界の著名人が世界平和を話し合う「第二回科学者京都会議」は、七日午前九時三十分から、広島県竹原市の佐々木ホテルで、三日間にわたる討論の幕を開けた。



第二回科学者京都会議であいさつする湯川博士(中央座長席)

この会議は、世界平和の運動家として知られる米国のバートランド・ラッセル卿や教員インシテアイン博士のよみかけで、一九五七年、世界の代表的な科学者がカナダのパウワッシーに集まり、

国籍とイデオロギをこえて広い視野から人類の平和を討議した「パウワッシー世界会議」の日本版。この会議は、その二回目にあたるが、今回開催の地名から「科学者京都会議」の名で呼ばれた。

ことしの出席者は、この会議を提唱した湯川、朝永、坂田の三教授のほか、立命館大総長、末川博(民社)▽広島大名誉教授、三村剛(理研)▽同教授、佐久間(理研)▽東京教育大教授、三宅泰雄(地球物理)▽学術院大講師、久野取(哲学)▽東大教授、江口村郎(近代史)▽同、

野上茂吉郎(原子物理)▽評論家、田中慎次郎(政治経済)氏ら計十一人。  
第一日目の七日は、湯川博士の開会あいさつを皮切りに本格的な意見発表にはいった。  
午前中は「キニエバ危機以後の世界情勢」として評論家、田中慎次郎氏が「地殻的安全保障と対比」をテーマにした演説で、対比を形成されている世界情勢からみれば、現在の国際情勢は五十一、五十二(集団安全保障)による、かえって冷戦を法制化しているような状態である。国連憲章の

規定は十年ごとに再検討できるという同憲章百九条を適用して、国連発足二十周年(一九六五年)を機会に再検討する必要がある」と指摘した。  
午後から「アジアの中の日本」の議題を中心に佐久間澄・広大教授が「アジアにおける戦争と平和」とりあげ、とくに竹のカーテンの問題」というテーマで世界の緊張の焦点となつてきているアジア各国を対等に強国の援助がどのよう

に伸びているかを説明し、その微妙な関係から政治的不安を述べた。このあと野上茂吉郎・東大教授は同じような立場から平和問題を話し合う組織として「アジア科学者会議の可能性」を

はさんだ中、日本の科学者が認識と理解で互いの懸念を振り越えれば緊密な連携感が育つのではな

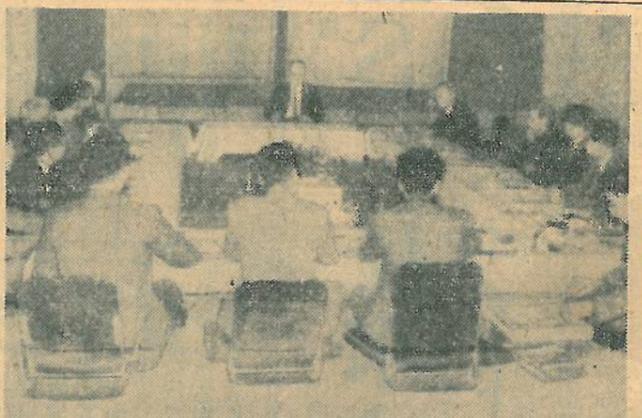
日経(5月8日)

### 科学者の組織など討議

#### 第二回科学者京都会議開く

【竹原】「第二回科学者京都会議」は湯川秀樹京大基礎物理学研究所長、末川博立命館大総長など日本の代表的な科学者、知識人十人を集め七日午前広島県竹原市の佐々木ホテルで開かれた。  
この会議は第一回会議の声明で確認された日本の平和への責任をもとに、中国を含めたアジアの平和、日本の科学者をいかに組織するかなど具体的な問題について三日間討論を続ける。  
この会議は昨年五月の第一回(一九五七年)に続き、会議には総務委員である湯川秀樹京大基礎

毎日 (5月8日)



第二回科学者会議—中央正面は高川博士、右側奥から末川、朝水、三宅、佐久間、左側奥から三村、田中、久野、江口、坂田、野上の各氏

# 国連憲章の再検を

## 田中氏 強調 竹原で科学者京都会議

【竹原】第二回科学者京都会議は、七日、広島県竹原市の佐々木旅館で開かれ、第二日の会議は朝九時半から夕方五時過ぎまで行なわれ、「キューバ以後の世界情勢」と題して国連の同盟を報告、とくに国連

して田中長次郎氏が報告、田氏は「地域的安全保障と対比し、政策との関連性について」と題し

憲章の第五十一条(自衛権)第五十二条(集団安全保障)が結果的に米ソの同盟軍ブロックを強化することになっている点を豊富な資料分析から強調、ちょうど一九六五年(昭和四十年)が国連憲章成立の二十周年に当たるので同憲章第九十九条の改正規定によって憲章そのものを再検討すべきではないかと述べた。

引き続き午後には久野収氏の司会で佐久間氏が「アジアにおける戦争と平和の問題」、野上茂吉氏が「アジア科学者会議の可能性」についてそれぞれ報告、提案。佐久間氏はその中でアジア諸国の現状が世界緊張の焦点になっている点を指摘、とくに外国からの援助とどう関連するかを分析、その上で野上氏は「パグワッシュの精神から考えても科学者は語が通じ合う人種だが、アジアの科学者同士の間で話し合える可能性があるかどうか」と問題提起を行なった。そして日本と中国の科学者の間に科学的な考え方は一致しているが、

この際お互いのおかれている困難な立場を認識し合うことにより理解感を深めてゆくことが必要である」と述べた。

湯川博士あいさつ(要旨) 昨年の第一回会議を通じ、さらに昨夏の縣井沢での研究会、九、十四、十六日パグワッシュ会議での報告などの活動を通して私たちは努力を続けてきた。しかし昨年十月のキューバ事件をきっかけに世界情勢は大きく変わってきた。そのもとで開かれることになったこの会議は三つのテーマから成っている。①キューバ以後の世界情勢②アジアの中の日本の科学者の社会的責任③三つである。第二の科学者の社会的責任については前々から皆さんが考え、実践もなさっていることであるが、この機会にぜひ考えを深めてゆきたい。

この会議は非公開だが封鎖的なものではない。出席者の半数以上が初出席の方々であることがこの会議の開放的性格を物語っていると

- 【参加者】湯川秀樹(京大教授、理論物理学)、朝水敏二(東京教育大教授、理論物理学)、坂田昌一(名大教授、理論物理学)、三宅泰雄(東京教育大教授、物理学)、田中長次郎(評論家)、江口朴郎(東大教授、西洋史学)、末川博(立命館大教授、民法)、野上茂吉(東大教授、物理学)、久野収(評論家、論理学)、三村剛昂(広大名誉教授、理論物理学)、佐久間澄(広大教授、物理学)



毎日 5/8

# 静かな環境で地味に

## 竹原での第二回科学者京都会議 市民も深い関心を集める

核戦争の恐怖に全世界がさらされている今日、科学者は平和の問題にどう取り組むべきか、科学者の社会的責任をどんな形で表現していったらいいのか。現在の苦

分の記者会見で会場の様子を発表するだけ。一会議の性格が内輪の話し合いだし、落ち着いた議論が行なわれたのはいさかかふん囲気でもしうの問題に取り組みたいから」と会議の事務局長役の豊田利幸立教大教授は説明していた。午前九時半から午後五時

学名としての話し合いがじつじつと進んでいく。竹原が選ばれたという。また科学者京都会議の世界版は、バグウォッシュ会議誕生の地バグウォッシュはカナダ大西洋岸無名漁村、バ会議の精神を基調としてこの会議にとり海のある町静かな竹原はバグウォッシュをしのびせる快適な場所だとい

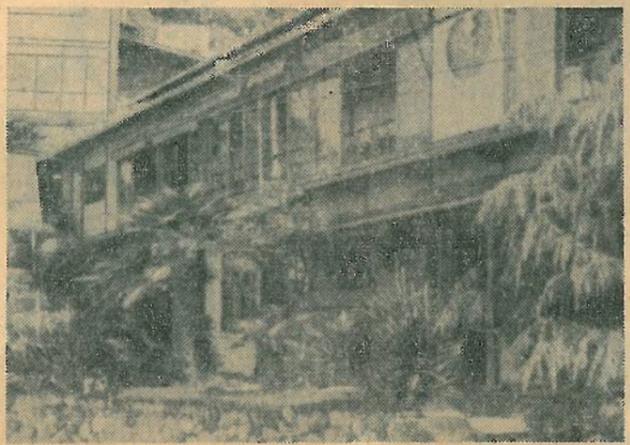
核戦争の恐怖に全世界がさらされている今日、科学者は平和の問題にどう取り組むべきか、科学者の社会的責任をどんな形で表現していったらいいのか。現在の苦

核戦争の恐怖に全世界がさらされている今日、科学者は平和の問題にどう取り組むべきか、科学者の社会的責任をどんな形で表現していったらいいのか。現在の苦

核戦争の恐怖に全世界がさらされている今日、科学者は平和の問題にどう取り組むべきか、科学者の社会的責任をどんな形で表現していったらいいのか。現在の苦



駅前での歓迎アーチ



会議が開かれている佐々木旅館

核戦争の恐怖に全世界がさらされている今日、科学者は平和の問題にどう取り組むべきか、科学者の社会的責任をどんな形で表現していったらいいのか。現在の苦

No. ....

5月9日

朝日(5月9日)

# 平和運動へ協力強調

## 科学者京都 会議二日目 実質討議を終る

【竹原H広島県】「核戦争による人類の絶滅を避けるために自然、社会科学者はなにをなすべきか」を討議する第二回科学者京都会議は、八日午前九時半から竹原市の湯川博士会館で、二日目の会議を開いた。この日は三浦東京教育大教授と末川立命館大総長が議長になって前日に続いて「アジアの中の日本」「科学者の社会的責任」について、江口村郎東大教授(西洋史)、久野取学習院大講師(哲学)坂田昌一名大教授(理論物

理学)の三氏が報告、討議がおこなわれた。この日の報告、討議で目立ったのは科学者、平和運動の結びつきだった。各氏の報告、発言要旨は次の通り。

まず江口教授は「世界史の中の日本」のテーマで世界史からみて、技術の発展によってこれまでの階級の発達の歴史を、つまり科学者の共通の立場から、一体として平和運動のために協力し合うべきではないかと強調した。

最後に坂田昌一名大教授は科学者、平和のために、いかに組織するかについて発言「現在の大きな研究は、科学政策を持つ国家や大企業に依存しなければならぬのが現状である。しかし水爆は完成したときをきつかけに、平和の論理が力を得て、科学者の国際的協力の機運が生れた。科学が人類のためにあるとするなら

は、これからは低開発国の開発に向けられるべきである。原子科学は最新の学問であるから原子科学者の間には新しい考え方があろう。この新しい考え方を大衆と結びつけ、いかに伸ばしていくかが問題である」と述べた。

なお学議の討議はこの日で終了。最終日の九日は午前中に全体討議をおこなって三百人の会議のまとめをする。このあと出席者全員が広島市に向い、新広島ホテルで記者団と会見、声明書を発表し、広島市と共催で午後六時半から広島市公会堂で「平和を創造するための学術講演会」を開いて市民や被爆者に会議の成果を伝える。

ついで久野取学習院大講師は「職業倫理と市民倫理」と題して「科学が発達するにつれて細分化、専門化されたが、この際、人類のための科学」という立場から将来への見通しを持った総合的な科学に邁進すべきである」と指摘した。

最後に坂田昌一名大教授は科学者、平和のために、いかに組織するかについて発言「現在の大きな研究は、科学政策を持つ国家や大企業に依存しなければならぬのが現状である。しかし水爆は完成したときをきつかけに、平和の論理が力を得て、科学者の国際的協力の機運が生れた。科学が人類のためにあるとするなら

は、これからは低開発国の開発に向けられるべきである。原子科学は最新の学問であるから原子科学者の間には新しい考え方があろう。この新しい考え方を大衆と結びつけ、いかに伸ばしていくかが問題である」と述べた。

なお学議の討議はこの日で終了。最終日の九日は午前中に全体討議をおこなって三百人の会議のまとめをする。このあと出席者全員が広島市に向い、新広島ホテルで記者団と会見、声明書を発表し、広島市と共催で午後六時半から広島市公会堂で「平和を創造するための学術講演会」を開いて市民や被爆者に会議の成果を伝える。

朝日(5月9日)

# 興添える雨の海

## 第二回科学者京都会議 熱心な討論続く

【科学者京都会議二日目の八日(五)は、雨も、平和のための合宿」に参加した湯川博士ら十一人の出席者に加えて、雨のため一段と静かになったり、会場の前の廊下から雨にけむる瀬戸内海をながめて「息抜く風」がみられた。

この日は江口村郎東大教授、久野取学習院大講師、坂田昌一名大教授らが「アジアの中の日本」を討議し、科学者の社会的責任について議論が、話し合いのための合宿」に「科学者の社会的責任について議論

この日は江口村郎東大教授、久野取学習院大講師、坂田昌一名大教授らが「アジアの中の日本」を討議し、科学者の社会的責任について議論が、話し合いのための合宿」に「科学者の社会的責任について議論

【科学者京都会議二日目の八日(五)は、雨も、平和のための合宿」に参加した湯川博士ら十一人の出席者に加えて、雨のため一段と静かになったり、会場の前の廊下から雨にけむる瀬戸内海をながめて「息抜く風」がみられた。

この日は江口村郎東大教授、久野取学習院大講師、坂田昌一名大教授らが「アジアの中の日本」を討議し、科学者の社会的責任について議論が、話し合いのための合宿」に「科学者の社会的責任について議論

【科学者京都会議二日目の八日(五)は、雨も、平和のための合宿」に参加した湯川博士ら十一人の出席者に加えて、雨のため一段と静かになったり、会場の前の廊下から雨にけむる瀬戸内海をながめて「息抜く風」がみられた。

この日は江口村郎東大教授、久野取学習院大講師、坂田昌一名大教授らが「アジアの中の日本」を討議し、科学者の社会的責任について議論が、話し合いのための合宿」に「科学者の社会的責任について議論

## 成果発表の講演 広島市で

【広島市は】第二回科学者京都会議の成果を広島市民や被爆者に伝えるため、九日午後六時、学術講演会(入場無料)を開く。科学者

【広島市は】第二回科学者京都会議の成果を広島市民や被爆者に伝えるため、九日午後六時、学術講演会(入場無料)を開く。科学者

【科学者京都会議二日目の八日(五)は、雨も、平和のための合宿」に参加した湯川博士ら十一人の出席者に加えて、雨のため一段と静かになったり、会場の前の廊下から雨にけむる瀬戸内海をながめて「息抜く風」がみられた。

【科学者京都会議二日目の八日(五)は、雨も、平和のための合宿」に参加した湯川博士ら十一人の出席者に加えて、雨のため一段と静かになったり、会場の前の廊下から雨にけむる瀬戸内海をながめて「息抜く風」がみられた。

毎日(5月9日)

# 人類の立場を強調

## 科学者 平和への責任討議

【竹原】広島県竹原市で開かれて  
いる第二回「科学者京都会議」二  
日目の八日、午前中は三宅泰雄氏  
の司会で前日に引き続き「アジア

の中の日本」のテーマで討論が行  
なわれ、江口朴郎氏が「世界史の  
中の日本」を主題に報告、午後は  
「科学者の社会的責任」をめぐっ  
て久野収、坂田昌一両氏の報告を  
中心に話し合いが続けられた。  
江口氏は「現在の世界では、平  
和が実践的な課題になってい  
る。つまり平和という抽象的なことば  
によって現実的に大衆組織でき  
るのである。今日では国家に直接  
関係のない大衆運動が国際政治に  
影響を与え、平和の維持に貢献し  
ている。この事は世界史が新し  
い段階にはいって来たことを示して  
いる」と前置きして話のように述  
べた。

原子力を中心とする科学技術の  
発展にささげられたこの「人  
類」という考えの前には民族  
国家、階級対立は絶対的な意  
味を持たないようになってきた。  
この現実に科学者は注意す  
べきだ。アジア、アフリカなど  
の民族国家は後進的段階にある  
が、現在の世界の平和はこれら  
諸国の自主的な動きのうえにさ  
さげられているといっても過言  
ではない。

一方、日本は明治以来の近代化  
の過程では世界史の現実にそっ  
てうまく伸びてきたのに、現在  
はすっかり主体性、自主性を失  
ってしまった。われわれ科学者  
は平和の問題、アジアと中国  
との交流問題を考える際、以  
上のような点をまず反省する必  
要がある。

午後三時、坂田昌一氏の報告が  
「職業倫理と市民倫理」坂田昌  
一氏が「組織の問題」についてそ  
れぞれ提案を行なった。

久野氏は「隣接科学を中心に学  
問そのものをこころも一度総  
合化し科学の進むべき方  
向の方向を考えなければなら  
ない」と述べ、また「市民とし  
て共同社会の中で生きるには科学  
者としてどうすべきかという点  
もじっくり考えなければならな  
い」と報告した。

# 市民と手を組もう 社会的責任で報告

科学者会議二日目

【竹原】竹原市で開かれている  
第二回科学者京都会議二日目の八  
日は、日本の科学者が現在置かれ  
ている状態について参加者三人が  
報告した。

午前中は三宅泰雄東京教育大教  
授(地球化学)が座長で、江口朴  
郎東大教授(史学)が、「現在の  
世界史的条件の特徴は、国家と直  
接関係のない大衆運動によって国  
際政治も影響を受けており、科学  
者はこの点に留意しなくてはなら  
ない。それに現在は世界史的態度  
が失われており、とくにアジア、  
中国との交流に反省の要がある」と  
指摘した。

午後三時、坂田昌一氏の報告が  
「職業倫理と市民倫理」坂田昌  
一氏が「組織の問題」についてそ  
れぞれ提案を行なった。

中国(5月9日)





No. ....

5月10日

# 夜は「学術講演会」

## 科学者会議 雨中を広島へ

竹原市高崎町、佐々木ホテルで開かれた第二回科学者京都会議は九日正午、全体討議を終わり、午後二時有原竹原市長ら市関係者に送られ、全員貸し切りバスで広島市に向かった。はじめは午後二時竹原駅発下り急行「吉備」で広島に向かう予定だったが、雨のためホテルから広島へ直行するべく変更した。

この日、竹原駅には科学者を一目でもみようと雨の中を多数の市民が出て待ち受けていたが、一行がバスで直行したのをあとで知り、みんながっかり。

会議中の三日間で対天候だったのは三日の七日だけ、あとは毎日

読賣 (5月10日)

# ミサイル潜艦は危険

## 憲法九条の意義増す

### 科学者京都会議が声明 おわる

【広島発】七日から広島県竹原市「バー」の豊田利幸（立教大）高木修二（京大）両氏を除いた出席者十一氏が署名、ちか各回の関連代表などに送られる。

また午後六時半からは同市公会堂で「平和を創造するための学術講演会」を開き、湯川秀樹京大教授「科学者の社会的責任」の三本、「科学者の社会的責任」の三テーマについて討議を行なった。午後七時出席者全員が広島市に向かい、同四時から新広島ホテルで三日間にわたる会議の結論を「平和の時代を創造するため核非武装の原則」と題する声明書を発表し、声明書にはオランダの必要性を説いた。

声明書（要旨）次の通り。

人類が初めて原子爆弾の爆発をこうむった広島に近い竹原で一年前の第一回科学者京都会議の意義と内容を再確認し「キューバ以後の世界情勢」「アジアの中の日本」「科学者の社会的責任」に中心とする諸報告を中心として七日から三日間にわたり討議を行ない、つきに掲げる諸点について意見の一致を見た。

一、大量殺りく兵器による戦争抑止政策は移動可能核ミサイル基地である原子力潜水艦を主体とする核戦略をとりつづり、地球をおおむね基地網と相まじりてまします。危険な様相を呈してきた。

二、歴史は運命ではなく、人間によって作られるもので科学者たちの努力を含む広範な大衆の平和運動が国際政治に影響を与えている。

三、日本国憲法第九条は平和時代を創造する指針としてますます大きな現実的意義を持つていた。

四、国連憲章に東西両陣営の敵対する軍事ブロックの形成を助長するおそれのある条項のあることを指摘し、その再審議を提案し、中華人民共和国の国連加盟を實現するに於てが国連本来のあり方である。

五、日本が核非武装の原則を貫き、いっさいの核兵器の持ち込みを拒否するとはアジアにおける核戦略体制の恒久化を防ぎ、世界平和に対する大きな貢献となる。

六、平和の創造に対しては人文、社会、自然を分断の科学者が協力



声明を読み上げる豊田立教大教授（左端）後へ朝永東京教育大教授、湯川京大教授、坂田名大教授、末川立命大総長

して、その社会的責任を果たすことがきしめられて必要である。さらにアジア諸国の科学者の協力を求める可能性を検討することが将来の重要課題の一つである。

七、科学の応用を防ぐ力と倫理が社会に広がらなければならない。けまされ、この努力をあらゆる人々とともに進めたい。

中国 (5月10日)

科学者  
会議

# 国連憲章再審議を提案

## 中国の加盟支持



声明文を発表する科学者会議のメンバー (広島市新広島ホテルで)

声明発表して閉幕

七日から竹原市で開かれていた第二回科学者京都会議は、最終日の九日午後、会場を広島市に移して新広島ホテルで出席者十一人全員が記者会見し、昨年の第一回会議のとき強調した憲法第九条の意義を重ねて確認すると同時に、中国の国連加盟を提案する声明文を発表した。一行は広島市公会堂での講演会にのぞき、湯川氏が「科学者と社会的責任」朝永氏が「バグワッシュ運動」末川氏が平和憲法と科学者の任務を題して、一般市民に平和へのアピールを行なう。三日間の日程を終えた。【十三日に関連記事】

### 日本は非核武装貫け

会議は九日午前中、竹原市佐々木ホテルで、これまでの報告討論について全体討議、声明文の草案をねらった。この声明文には出席者十一人が署名し、豊田利彦同会議事務局長(立教大教授)が、原子力潜水艦を主体とする核戦略で危機がますます深まっている。国連憲章の再審議が必要である。中国を国連に加盟させるべきだ。日本は非核武装の原則を貫くべきである。アジア諸国の科学者の協力体制をつくるべきだ。など七項目の声明文を発表した。この声明文は追って国内の各方面に配布するほか、英訳して世界各国の代表科学者、国連代表、各国の首脳部あてに送付される。湯川、朝永、坂田の三総務委員は記者団の質問に答えて次の点を明らかにした。

一、現在、問題になっている原子力潜水艦寄港問題は、会議の討論の中ではふれられず、内容をもっと大きな目で見ようという方針で話し合われた。

一、次のバグワッシュ会議の日程は不明で、パ会議にこの声明書を持って行く予定はない。

署名者の氏名  
湯川秀樹 (京大基礎物理学研究所長)▽朝永振一郎 (京大基礎物理学研究所長)▽坂田昌一 (名大教授)▽江口伸郎 (東大教授)▽大野取 (京大院大講師)▽佐久間澄 (京大教授)▽末川博 (立命館大総長)▽田中慎次郎 (計議室)▽野上茂吉郎 (東大教授)▽三村剛昂 (京大名誉教授)▽三宅泰雄 (東京教育大教授)

# 科学者と社会的責任

湯川氏の講演要旨

われわれは、原爆、という人類最大の試練を受けた広島で、科学者の社会的責任について話し合った。大きな成果を得た。これを社会で活かすにはどうしたらいいか。

科学者は、自分の専門分野で進むべきであり、真理を究むべきである。しかし、科学の進歩が人類に大きな利益をもたらす一方で、核兵器の開発や原子力発電の事故など、人類に大きな被害をもたらすこともある。科学者は、自分の専門分野だけでなく、社会全体の利益を考慮し、社会的責任を果たす必要がある。

## 核戦争防止する努力

### 専門にこもる時でない



講演する湯川氏（広島市公会堂で）

人間が初めて原子爆弾の爆発を体験したのは広島に近しい原爆に集まった。科学者が一年前の第一回科学者京都会議の意義と内容を再確認し、「キーンバ」以後の世界情勢、「アジアの中の日本」、「科学者の社会的責任」にかんする諸報告を中心として七日から三日間わたって討議を行なった。とくに次の諸点について意見を一致させた。

### 声

### 書

(要旨)

一、大量殺りか兵器による戦争抑止政策は、移動可能ミサイル基地のある原子力潜水艦を主体とする核戦略をとりつらね、地球をとおも基地網を相まします。ますます危険な極相を呈してきた。世界各國すべての国家が多数の政策決定を通じて人間にばれてい。

二、歴史は運命ではない。人間はついでつらねられるもので、科学者たちの努力をよびつらねる大衆の平和運動が国際政治に影響を与えている。

三、憲法第九条は、平和時代を創造する指針として、ますます大きな意義を持つてきている。

四、国連憲章に、東西陣営の敵対する軍事ブロックの形成を助長するおそれのある項のあることを指摘し、その再審議を提案し、中華人民共和国の国連加盟を表明することが国連本来のめあてである。

五、アジアにおける緊張の緩和は、米合衆国と中華人民共和国との間が、いままお敵対状態にあることを、世界平和のため大きな障害となっている。日本が非核

への意義をがわらない場合、たいへんしむべきことだ。人類がいつか知識を持った。科学は発掘され、知られ、深められ、人類の共有財産である。たが、二十世紀になってから原子物理学は、予想外に深刻な社会的影響をもたらし、人類の生命を脅かすことになった。原爆、核兵器の開発、それを知られた。人類全体が、共進したひとつの運命を分かちあうべきである。

命というか、連帯感をもっている。科学者、芸術家、宗教家、市民みんなが平和のために努力すれば、世界平和は確立する。現任は人間がみんな平和をつくり出す責任と努力の時代である。

No.

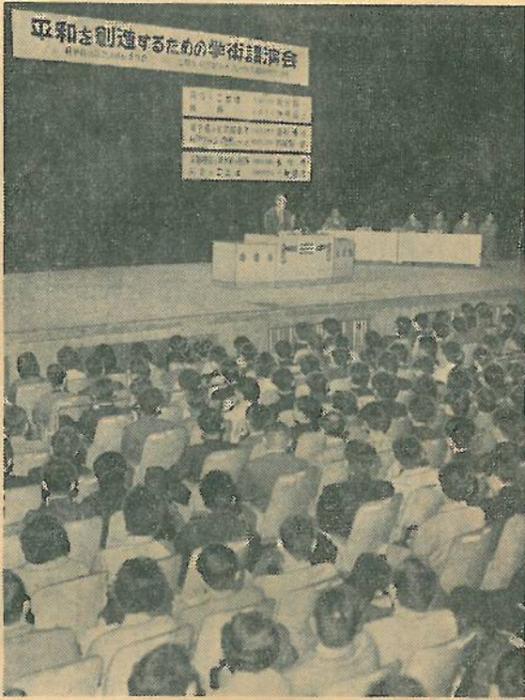
中国 (5月10日)

# 平和創造訴える

## 広島市で科学者の学術講演

### 聴衆へ深い感銘

科学者京都学術懇話会主催、広島市、F.K. 中国新聞社後援の「平和を創造するための学術講演会」が、九日午後六時半から広島市公会堂で開かれた。同会議の国際版「グウォッシュ」会議が、一九五八年の第三回会議の声明をワイド体育館で市民に発表した例があるが、科学者京都学術懇話会が直接市長に強く訴える講演会は広島が初めてである。



広島市民に「平和」を訴える科学者たち

会場は閉まつて集まつた千八百人いっぱい。最前列中央には

### 科学者会議参加の四氏に聞く

九日、竹原市での三日間にわたる会議を終えた科学者たちに感想を聞いてみた。

#### 責任の重大さ 痛切に感ずる

朝永氏の話 科学者が声明書にいうように発言することが、何か



エリート意識からきているとの批判があることは事実だ。しかし科学が社会に対して大きい影響

森滝広大教授（広島県原水協理事長）らの姿も見えたが、学生、若い婦人が目だつた。

定刻、坂田昌一氏（学芸大学教授）が竹原市で開かれた第二回会議の意義を説明して開会を告げたあと

湯川秀樹（京大教授）朝永振一郎（東京教育大教授）末川博（立命館大教授）各氏の順に平和を創造する科学者の立場を語り、聴衆は静まり返つて一語一語を聞き

三村剛島大名誉教授のあいさつで終わり、聴衆に深い感銘を与えた。

良心がよわかつた。今願望の学者もこの会議の精神を積極的にくみとつて平和への努力をした



性がのべられているが、実際、いまほとんどの武裝を規定した九条が平和を創造する指針として大きな現

#### みんなが熱心

三村氏の話 第一回会議には急

ただけだが、前明書に署名した



係でアメリカの原爆製造に立ち会った原子物理学者と交流もあり、この点で余計に科学者としての責任を感じているようだ。私は純理

た感じ方をしているが、被爆の状況は私自身経験したことが、その悲愴さによく知っている。鎌倉のあまりないところでやりたいと緒

純委から相談があったので、お役に立つならと会議の世話をした。今後も申し入れがあれば協力したい。



原水爆反対が

佐久間氏の話 会議は実行機関ではなく、科学者の良心として、

平和の重要性と平和を守る決意を

討議しただけで、原水爆運動はテ

ーマにならなかつた。しかし人類を滅ぼさせる核兵器使用に反対する原水爆運動の意義は科学の悪用に反対するこの会議の精神と同じで、こうした原水爆反対の動きがこの会議の意義になっている。



朝日 (5月10日)



# 非核武装の原則強調

## 声明発表 科学者京都会議終る

が差迫って必要である。さうに中華人民共和国をはじめアジア諸国の科学者の協力を得る可能性を検討することが将来の重要な課題の一つである。

⑦科学の悪用を防止、力と倫理が社会に広がりつつあることに励まされ、この努力をあらゆる人々とともに進めた。

【広島】湯川秀樹博士の日本の代表的科学者や知識人が集り、去る七日から広島県竹原市で開かれていた、第二回科学者京都会議は「キーパー」以後の世

界情勢「アジアの中の日本」科学者の社会的責任の二つをテーマに、九日昼すぎまで三回にわたる討議をつづけた。午後は会場を人類が初めて原爆の惨禍をこうむった広島市に移し、午後四時から新広島ホテルで別項のよび書

【二面に解説】  
①大量殺りく兵器による戦争  
②さらに平和の創造に対して各分野の科学者が協力して、その社会的責任を果すべきである、など七項目について主張している。

③この声明は「平和時代を創造するために非核武装の原則」とうたっているように、改めて二年前の第一回会議の声明を再確認するとともに、④大國がこころを大量殺りく兵器による戦争に止めるべきである、と断言し、少敵の政策決定者による「人質政策」であると断定、核時代以前に作られた国連憲章は今日の時代に対応するよう早急に改定

【広島】湯川秀樹博士の日本の代表的科学者や知識人が集り、去る七日から広島県竹原市で開かれていた、第二回科学者京都会議は「キーパー」以後の世

界情勢「アジアの中の日本」科学者の社会的責任の二つをテーマに、九日昼すぎまで三回にわたる討議をつづけた。午後は会場を人類が初めて原爆の惨禍をこうむった広島市に移し、午後四時から新広島ホテルで別項のよび書

【二面に解説】  
①大量殺りく兵器による戦争  
②さらに平和の創造に対して各分野の科学者が協力して、その社会的責任を果すべきである、など七項目について主張している。

③この声明は「平和時代を創造するために非核武装の原則」とうたっているように、改めて二年前の第一回会議の声明を再確認するとともに、④大國がこころを大量殺りく兵器による戦争に止めるべきである、と断言し、少敵の政策決定者による「人質政策」であると断定、核時代以前に作られた国連憲章は今日の時代に対応するよう早急に改定

【二面に解説】  
①大量殺りく兵器による戦争  
②さらに平和の創造に対して各分野の科学者が協力して、その社会的責任を果すべきである、など七項目について主張している。

# バスで広島入り

## 科学者京都会議の一行

三日間の「平和への会合」を終えた「科学者京都会議」の出席者と事務局員一行約二十人は、九日午後専用バスで広島市入りした。最初予定では国鉄路線で広島市入りするはずだったが、雨と汽車の遅延が重なったためバスに変更した。このバスにも報道陣は同乗を許されず、毎日の中間発表以外は完全な非公開会談だった。事務局の話では竹原市・西条町・広島市間約五十キロのコースを

三日間の「平和への会合」を終えた「科学者京都会議」の出席者と事務局員一行約二十人は、九日午後専用バスで広島市入りした。最初予定では国鉄路線で広島市入りするはずだったが、雨と汽車の遅延が重なったためバスに変更した。このバスにも報道陣は同乗を許されず、毎日の中間発表以外は完全な非公開会談だった。事務局の話では竹原市・西条町・広島市間約五十キロのコースを

九日午前中は朝永氏が議長となって全体討論をして会場のまどめを仕上げて宿舎をあとにしたが、お手伝いさんたちは「みんなやさしくいっしょにやろう」とも疲れないうつらさ。つら折れの道路を車で去っていく一行にいつまでも手を振り、バスの乗車場になった広島大理論研でも研究員や女子職員が見送った。

湯川博士らは、声明書を発表する記者会見に臨んだあと、浜井広島市長の招待夕食会に出席、午後六時から市公会堂で「平和を創造するための学術講演会」で会議の成果を広島市民に発表した。会場には浜井市長をはじめ被爆者、市民、学生、平和、文化団体の人が約七百人が詰めかけ、平和への道、をわかりやすく話す湯川、堀水、末川三氏の講演にじっと耳を傾けていた。



広島市公会堂の学術講演会で演説する湯川京大教授

朝日 (5月10日)

Hiroshima University

毎日(5月10日)

# 核兵器の搬入拒否

## 平和創造へ全分野で協力

### 科学者京都会議終わり声明



川、朝水  
坂田、湯  
(右から)  
の諸教授

【広島】広島県竹原市の佐々木旅館で七日から三日間にわたって開かれた第二回科学者京都会議は最終日の九日全体討議を終わったあと、午後バスで会場を広島市の平和公園内にある新広島ホテルに移し、同四時からの記者会見で今度の会議の成果を声明書の形で発表した。発表には会議参加者の全員十一人が出席、事務局長役の豊田利幸立教大教授から「平和時代を創造するために——核非武装の原則」と題する声明書を読み上げた。

### 国連憲章再審議を

軍事プロ  
ック是正

この声明書は手前や人類が最初の大規模な核戦争を受けた広島市に近づいた核兵器の再搬入に危険な状態に置かれている。科学者たちを中心に平和運動は国際政治に影響を与えている。

この声明のあと湯川秀樹博士は「核非武装の原則を貫くことが正しい。そこから今後の個々の問題に対する姿勢が決まる。軍縮と経済などの困難な問題についても前回会議で取り上げたことがきつかりとなり、すでに多くの経済学者が熱心に研究して下さるようになった。これも京都会議の重要な成果の一つ」と語った。

また最後に河永敏一郎博士は科学者の社会的責任に勉め「科学者のこういう発言について一種の選良意識から出ているの批判もあるが科学が人類の破壊に悪用されることを考えれば責任を感じないわけにはいかない」と付け加えた。なお声明書は近く会議参加者全員の署名を付け、各国の国連代表をはじめ内外の科学者、知識人に送られる。

毎日 (5月10日)

### 社会的責任を確認

#### 独自の平和運動、軌道に

【広島】現代の自然、人文科学で七日から広島県竹原市で開かれ、世界のトップクラス十一人が集まった二日「科学者京都会議」

「核兵器と軍縮」「軍縮と経済」「科学時代のモラル」「世界平和」「アジアの中の日本」「科学者の

社会的責任」の三つ。この一年間

ひついてゆくべきか坂田昌一氏

回にわたる熱心な討論を終えて科

学者独自の平和運動として軌道に

乗り出したといえよう。そのうえ

で、民衆とともに「さあ歩いてい

くが今後の課題となる。(天

鳥記者)

人類が初めて原子爆弾の惨禍を  
こうつた広島に近い竹原に集ま  
った科学者は、一年前の第  
一回科学者京都会議の意義と  
内容を再確認し「キューバ以後の  
世界情勢」「アジアの中の日本」  
「科学者の社会的責任」に関する  
諸報告を中心として、七日から三  
日間にわたり討論を行ない、つき  
よめてつくられるもので、科学者  
たちの努力を言ひ広範な大衆の平  
和運動が国際政治に形を与えて  
いく。

【(一) 大量殺りく兵器による戦争  
抑止政策は、移動可能核ミサイル  
基地である原子力潜水艦を主体と  
する核戦略をとりつつあり、地球  
の持ち込みを拒否することはアジ  
アにおける核戦略体制の恒久化を  
防ぎ、世界平和に対する日本の大  
きな貢献となる。  
(二) 平和の創造に対しては人文  
・社会・自然全分野の科学者が協  
力してその社会的責任を果たすこ  
とは差し迫って必要である。さら  
に中華人民共和国の科学者の協力  
を得る可能性を検討することが将  
来の重要課題の一つである。  
(三) 科学の悪用を防ぐ力と倫理  
が社会に広がりつつあることに励  
み、この努力もあらゆる人々  
とともに進めたい。

は九日夜広島市で行なわれた「平  
和を創造するための講演会」で三  
日間の報告閉じた。ちょうど二年  
前の第一回会議(京都市)では  
「核兵器と軍縮」「軍縮と経済」  
「科学時代のモラル」「世界平和  
「アジアの中の日本」「科学者の

社会的責任」の三つ。この一年間  
の世界情勢の変化の究明と同時に  
科学者の立場から「平和創造」の  
現実的な可能性の発見に取り組ん  
だことが大きな特徴だった。  
「科学者はいかにあるべきか」  
から「何をなすべきか」に発展  
するための重大なステップが  
「竹原会議」であったといえよ  
う。

三日間の討論はこの線にそって  
「平和への具体的条件」への探  
究に全力が注がれた。軍事プロ  
ダクトの対立を国連憲章の改正に  
より解消しようとの提案(田中  
慎次郎氏)、科学者の連帯感を足が  
かりにアジア科学者会議開催の可  
能性(野上茂吉郎氏)、科学が社会  
を動かす巨大な力となった今日、  
細分化し専門化した諸科学に横の  
連携をつくることにより人類の幸  
福をまず「科学」をつくり出す  
(八野取氏)、学者は大衆とどう結

びついでゆくべきか坂田昌一氏  
などいずれも実際に直面している  
問題と現代の苦悩について率直な  
発言がメンバーの間でかわされ  
た。

会議が行なわれた竹原市の旅館  
は瀬戸内海を望む小山中腹の  
静かな場所。カナタ大西洋岸の  
一漁村バグワッシュをしのば  
せるこの会議場で連日夜おそく  
まで討論が続けられた。そのバ  
グワッシュ会議の第二回目  
(昭和三十三年三月十四日)はロ  
ンドン軍縮会議が失敗に終わる  
国際緊張が高まった時期に開か  
れ「目前の危険をなくする方  
法」「緊張をゆるめるためにど  
うすべきか」が討議された。

パ会議の日本版、京都会議の第二  
回目も参加者にとってはキューバ  
事件を中心とする「平和の危機時  
代」という考え方が圧倒的で、こ  
の危険な時代に科学を悪用させな  
いのが科学者の責任であるとの使  
命感が会議のふん囲気に流れてい  
た。だから会議の成果も声明にな  
るように第一回のそれと比べては  
るかに具体的な項目で責められ、全  
体に緊張感を盛り上げていく調子  
の濃いものだった。

二回の会議を通じて具体的に動き  
出した科学者京都会議。「科学  
を悪用する恐ろしさを一番よく知  
っているからこそ科学者の責任の  
重大さを身にしみて感ぜざるをえ  
ない」(朝水敏一郎氏)の苦悩を  
秘めながら、科学者の社会的責任  
が強く確認された。京都会議は二

# 護憲・核非武装貫け

## 第二回 科学者京都会議が声明

米核潜艦「寄港」に反対する原  
子科学者を中心とした科学者の  
広範な反対運動がひろがってい  
るなかで、基地撤去、核武装化  
反対、憲法擁護、科学の平和利  
用、全面軍縮の達成をめざす人  
文社会、自然両科学の著名学者  
独自の平和運動としておこなわ  
れている「第二回科学者京都会  
議」は、九日前広島県竹原市  
佐々木ホテルでの三日間の会議  
の幕を閉じた。このあと同日午  
後四時、広島市の爆心地につく

られた平和公園内の新広島ホテ  
ルロビーで湯川秀樹京大教授、  
朝永振一郎東京教育大教授（学  
術会議会長）、坂田昌一（名大  
教授の三継継委員のほか末川  
博立命館大総長、三村剛昂広  
島大名教授、江口朴郎東大  
教授、野上茂吉郎東大教授、  
三宅泰雄東京教育大教授、佐久  
間澄広島大教授、久野収学習院  
大講師、評論家田中慎次郎の十  
一氏の参加者全員が出席して記  
者会見をおこない、三日間の討

議を通じて全員一致した点をま  
とめた声明（全文は二面に掲  
載）を朝永振一郎東京教育大教  
授が発表した。  
声明は、「移動核基地」としての  
核潜艦の世界的配置にあらわれ  
ているアメリカの新戦略の強  
行によって、世界の緊張がますます  
激化し、戦争の危険が高ま  
っているきびしい国際情勢下  
にあることを警告したあと、世界  
の平和運動はこのようななかで  
しだいに大きくひろがり、国際  
政治にも影響をおよぼし、平和  
をねがう人たちがのぞみをして

ず協力しあえば、平和は必ず守  
れることを、この平和運動  
に科学者がすすんで参加するこ  
との重要性を強調している。さ  
らに、日本では戦争放棄した憲  
法第九条がふみにじられている  
現状のなかで、護憲運動のもつ  
重要性、日本の核非武装、中華  
人民共和国の一日も早い国連加  
盟がアジアと世界の平和にとっ  
て重大なことであり、国連が本  
来の使命を果たすよう努力する  
必要があると強調された。

政治にも影響をおよぼし、平和  
をねがう人たちがのぞみをして  
の科学者が互いにイデオロギー

や方法論のちがいをこえて、そ  
の平和促進に重要な役割を果た  
すのべ、アジア諸国の文化交  
流を促進し「……科学者が  
この点で日中文化交流、アジア  
諸国の科学者との協力もアジア  
の発展に重要な役割を果たす  
べきである」と述べた。科学者  
の責任を果たすことがさ  
すのべ、アジア諸国の文化交  
流を促進し「……科学者が  
この点で日中文化交流、アジア  
諸国の科学者との協力もアジア  
の発展に重要な役割を果たす  
べきである」と述べた。科学者  
の責任を果たすことがさ

幸福と世界平和にのみ役立たせ  
るためにあらゆる人びととも

### 科学者の重大な責任

#### 湯川秀樹京大教授の話

第一回科学者京都会議の場所  
を人類がいまわしい核兵器の被  
害を最初につけた地—広島に  
選んだのは、ふたたびこのよう  
な惨禍を地球上にくりかえさ  
ない、というわたしたちの決意  
のあらわれです。科学者は、そ  
の専門分野での研究を深める一

方、人民の一人として社会にた  
いする責任を果たす義務をもっ  
ています。科学者は自分たちの  
発見した真理の悪用を防ぐた  
めに努力する責任を負ってい  
ます。科学者京都会議はこの一  
つのあらわれです。困難は承知  
していますが、はじめた道を一  
歩一歩おすすめてゆきたいと  
思っています。



第2回科学者京都会議の声明発表（右から江口朴郎、久野収、三宅泰雄、末川博、坂田昌一、湯川秀樹、朝永振一郎、豊田利幸、三村剛昂、田中慎次郎、佐久間澄、野上茂吉郎の各氏）—9日、広島市新広島ホテルで

# 平和時代を創造するため に「核非武装の原則」

## 第二回科学者京都会議の声明

第二回科学者京都会議最終日の九日午後、広島市新広島ホテルでの記者会見で、朝永振一郎東  
京教育大教授が読みあげたステートメント全文。

人類がはじめて原子爆弾の惨禍 日々に、深えんの縁に立たされ  
をこらした広島に近い竹原市 へ戦りつすへき体験を継まし  
に集ま。た私たちが諸分野の科 だ。抑止政策は最近では移動可  
学者は、一年前、第一回科学者 能な核ミサイル基地の性格を  
京都会議が抱こした声明の意 なた原子力潜水艦を主体とす  
義と内容を再確認し、「キョ る核戦略の形をとりつつあり、  
ーバ以後の世界情勢」、「アジ 地球表面の全域にわたる基地網  
アの中の日本」、「科学者の社 ともいって、世界情勢はまず  
会的責任」にかんする諸報告を ます緊迫の度を加えつつありま  
中心として、三日間にわたる討 ず。このような状況のもとで  
議をおこないました。とくに、 は、世界各用すべての民衆は  
前回の声明のなかで指摘された 少数の世界政策決定者によっ  
諸点を含めて、さらに深く検討 て「一箇」にわたっているとい  
しました。

(一) 昨年の科学者京都会議の 運命ではなく、人間によって作  
声明のなかで、私たちは大量殺 られるものであることを私たち  
り兵器による戦争抑止政策の は想起したいと思えます。この  
危険な性格を指摘し、この政策 こととは、今世紀の初頭と  
への反対の意思を表明しました 現在といつこの時点における  
が、その後、キューバの危機の 世界史の断面を比べてみれば明  
あり。しかしながら、歴史は らかなるでありましょう。今  
てきています。

運命ではなく、人間によって作  
られるものであることを私たち  
は想起したいと思えます。この  
こととは、今世紀の初頭と  
現在といつこの時点における  
世界史の断面を比べてみれば明  
らかなるでありましょう。今  
世紀の初頭においては、世界の  
社会改革の運動も民族主義の動  
きも、また科学者、芸術家、宗教  
者たちの営みも互いにまったく  
孤立し、連帯感を欠いていて  
この事情が戦争を可能にしてい  
ました。しかるに私たちの立つ  
現在においては、国境を越えた  
連帯感に結ばれた広範な大衆の  
平和運動が科学者、芸術家、宗  
教者たちの努力を含めて国際政  
治に影響を与え得るまでに育っ  
てきています。

(二) いつたが、キューバ  
危機のごとき事態が世界のい  
れかの地点で発生しかねない、  
暗い情勢の中で、私たちはも  
すれば絶望感に抱われがちで  
あります。しかしながら、歴史は  
てきています。

(三) 前回の声明において、私  
たちは戦争放棄を明記した日本  
国憲法第九条の大きな意義を指  
摘しましたが、平和を創造する  
ための指針として、日本国憲法  
がますます大きな現実的意義を  
もつていたっていることをかさ  
ねて強調いたします。

(四) キューバ危機に際して、  
国際連合は偉大な貢献をしまし  
たが、私たちは国連の将来の役  
割に大きな期待をいたくがゆえ  
に、国連のあり方について見え  
て「三」の問題を提起したいと  
思います。

国連は、その憲法の第五十一条  
と第五十二条によって自衛権と  
地域的集団安全保障の権利を認  
めておりますが、現実には東西  
両陣営の敵対する軍事ブロッ  
クがこれに準拠して設けられ、こ  
れらの条項はあたかも冷戦と核  
兵器の脅威を公然と制度化し  
た観を呈しています。たまた  
ま明後年は国連設立の二十周年  
に当たり、憲法第九十二条の規定  
にもつき憲法を再審議できる  
機会があります。現在の国連憲  
章が核兵器出現以前につくられ  
たものであることを想起し、上  
記のような不合理な事象を排除  
するともに核時代に国連が世  
界平和維持のために有効に連  
帯行動できるよに国連のあり  
方の再検討が加えられるべき時  
期が到来していることを考えます。  
さらにまた、中華人民共和国の  
加盟を実現することが国連本来

のあり方にどうゆえんであるこ  
とを主張したいと思えます。

(五) アジアにおいては、米合  
衆国と中華人民共和国との間に  
敵対状態が十数年にわたって続  
いております。この状態の存在  
は、アジアにおける緊張の根源  
であり、世界平和の創造にとっ  
て著しい障害になっていると考  
えます。日本が核非武装の原則  
を貫き、いさゝかの核兵器のも  
ち込みを拒否することは単に日  
本が戦争に巻き込まれる危険性  
を減らすだけでなく、アジア  
における核戦略体制の恒久化を  
阻止するのに有効であり、日本  
の世界平和にたいする大きな貢  
献となるであります。

(六) 第二回科学者京都会議以  
後、軍縮と日本経済との関係を  
はじめ、いくつかの検討が進行  
しつつあることは、私たちが深  
く勇気づけるものであります。  
もともと科学者の社会的責任に  
たいする意識は、主として、原  
子物理学の発展とともに成長し  
てきたものであります。しかし  
し、平和の創造という課題にた  
いしては、イデオロギーや方法  
論の違いを越え、人文・社会  
・自然全分野の科学者が協力を  
通じて、その社会的責任を果た  
すことが、さし迫った喫緊事  
であると考えます。

さらに、長い文化交流の伝統  
をもつ中華人民共和国をはじめ  
思います。

め、アジア諸国の科学者の協力  
を促す可能性を検討することも  
私たち日本の科学者にとって持  
来の重要課題の一つである。

(七) 今日、社会にたいして巨  
大な影響力をもつものとなった  
科学が善用される場合を考える  
と、科学者として責任の重大さ  
を身にしみて感ぜざるを得ませ  
ん。私たちは科学の善用を防ぐ  
力と倫理とが社会にひろがりつ  
つあることに勇気づけられ、さ  
らに科学者が善の生産者となら  
ず、科学により発見された真理  
を真に人類の幸福と世界平和と  
にのみ役立つさせるために、あら  
ゆる人びととともに進みたいと  
思います。

中国 5/11



東京教育大教授  
朝永振一郎

### パグウォッシュ運動

私たちは昨年から京都、竹原で二回の科学者京都会議を開いた。この会議は、パグウォッシュ会議の日本版ともいわれる。パグウォッシュ会議は因縁の深いものだ。そこでパグウォッシュ会議がどういった性格の会か、その歴史を振り返ってみよう。

周知のとおり、昭和二十九年はヒキニの水爆実験、福島の死の可能性がある年だった。この危機を憂えて、翌三十年に有名

なラッセル・アインシュタイン声明が出された。声明は「核兵器による人類の破壊の危機に、我々が社会的責任があり、その影響を真剣に話し合い、社会に知らせる義務がある」というわけである。

この声明にこたえて、三十二年にカナダのパグウォッシュという小さな町で第一回の会議が開かれた。その後、毎年一、二回会議が

行われてきた。声明は「核兵器による人類の破壊の危機に、我々が社会的責任があり、その影響を真剣に話し合い、社会に知らせる義務がある」というわけである。

「パグウォッシュ運動」は、科学の成果が人類に及ぼす影響が人々に及ぼす害について、突如と科学的評価が行われ、かなり意見の一致をみた。しかし、この第一回は成功し、将来会議を続けることになった。そこで米英ソの科学者で、ラッセル氏を委員長とする会議の組織委員会を設けた。この委員会は、開扉場所を企画する

## 戦争放棄をめざす 科学者が行動で達成へ

### 科学者が行動で達成へ

「パグウォッシュ運動」は、科学の成果が人類に及ぼす影響が人々に及ぼす害について、突如と科学的評価が行われ、かなり意見の一致をみた。しかし、この第一回は成功し、将来会議を続けることになった。そこで米英ソの科学者で、ラッセル氏を委員長とする会議の組織委員会を設けた。この委員会は、開扉場所を企画する

対談する坂田教授と浜井市長



竹原市で開かれた科学者京都会議は9日夜、広島市内での学術講演会を最後に、非核武装の原則など数々の意義深い成果を残して終わった。平和を守る日本の知性は、会議の3日間を通して「会議から運動へ」の方向を示し、各方面から強い共感を呼んだ。中国新聞社はこの機会に平和をめぐる諸問題について、科学者京都会議の継続委員坂田昌一氏（名古屋大学教授）と地元の浜井信三氏（広島市長）に話し合ってもらった。

# 平和創造への道

浜井信三氏（広島市長） 対談 坂田昌一氏（名古屋大学教授）

坂田 信三、信三、信三、原水爆の危機をどうしてのられるか、話し合ったハグウォッシュン会議がきっかけである。第一回の会議に出席した谷川徹三氏（法大教授）が「インシュタインの原則」と名づけた「全体的破壊を避ける」という目標は、他のあらゆる目標より優先に採られるべきである。原水爆の脅威は、インシュタインの原則を、原水爆の脅威を科学的に示すものである。科学者の使命として、その脅威を知らせ、原水爆を禁止しようとするのがわれわれの任務である。

坂田 現在、国際情勢は、かきられた国の少数の政治家による動かされて、少数の人間の頭脳と判断に、全人類の運命がゆだねられている。第二の文盲時代、だ、という人もいます。同じ科学者でも、その分野のことがわからない時代である。まして科学者でない人は、人類は破壊に陥る。その意味で、科学者自身も努力すべきだし、政治にたずさわる人々も、真理にもとづいた科学者の声を率直に聞かなくては、とくに必要なきだけ聞かなくては、政策も方針を決める前に耳を傾けるべきである。これはわれわれ科学者が思いあがっているのではなく、現代が人類破壊の危機に直面しているから訴えているのだ。

坂田 日本は核兵器の脅威を認識して、他の国の人々をほとんど知っていない。核兵器禁止の推進は、統一して組織化する必要がある。浜井 広島は原水爆禁止運動に保守、革新はない。また原水爆禁止運動は、左翼だ、という偏見はない。日本国民全体が自主性を持ち、核兵器の脅威を認識し、自主的に行動することが必要だ。

坂田 科学者が平和への意欲を大衆と結びつけるためには、小グループへと出して行って話し合うことが必要だが、それと同時に、政治家たちに、科学者の声を正確に伝えたい。この会議を平和創造の地、広島で開いたことは、平和への大きな貢献になった。

## 大衆の自覚が急務 核恐怖に目おおうな

坂田 科学者が平和への意欲を大衆と結びつけるためには、小グループへと出して行って話し合うことが必要だが、それと同時に、政治家たちに、科学者の声を正確に伝えたい。この会議を平和創造の地、広島で開いたことは、平和への大きな貢献になった。

浜井 科学の発達で、すべてが科学的になつていく。政治が科学的なものである。科学的な要素が強く、それによって平和を願う一つの願いで集まっているのに、どうもかたがたと爆発する。原水爆が空中分解したのも、初めから分裂する要素があったわけだ。原水爆反対の一点で集結しながら、その共通の場には、それぞれの政治的立場やイデオロギー、理屈を持ち込むから分裂してしまう。その意味で原水爆禁止という一つの意思でまとまった科学者会議のあり方に敬意を表し、今後の活動に期待している。

坂田 私たちの京都会議は、ハートランド、ラッセル卿の呼びかけで東西の科学者が国籍、イデオロギー、宗教、信念を越えて、原水爆の危機をどうしてのられるか、話し合ったハグウォッシュン会議がきっかけである。第一回の会議に出席した谷川徹三氏（法大教授）が「インシュタインの原則」と名づけた「全体的破壊を避ける」という目標は、他のあらゆる目標より優先に採られるべきである。原水爆の脅威は、インシュタインの原則を、原水爆の脅威を科学的に示すものである。科学者の使命として、その脅威を知らせ、原水爆を禁止しようとするのがわれわれの任務である。

坂田 日本は核兵器の脅威を認識して、他の国の人々をほとんど知っていない。核兵器禁止の推進は、統一して組織化する必要がある。浜井 広島は原水爆禁止運動に保守、革新はない。また原水爆禁止運動は、左翼だ、という偏見はない。日本国民全体が自主性を持ち、核兵器の脅威を認識し、自主的に行動することが必要だ。

坂田 科学者が平和への意欲を大衆と結びつけるためには、小グループへと出して行って話し合うことが必要だが、それと同時に、政治家たちに、科学者の声を正確に伝えたい。この会議を平和創造の地、広島で開いたことは、平和への大きな貢献になった。

の政治家による動かされて、少数の人間の頭脳と判断に、全人類の運命がゆだねられている。第二の文盲時代、だ、という人もいます。同じ科学者でも、その分野のことがわからない時代である。まして科学者でない人は、人類は破壊に陥る。その意味で、科学者自身も努力すべきだし、政治にたずさわる人々も、真理にもとづいた科学者の声を率直に聞かなくては、とくに必要なきだけ聞かなくては、政策も方針を決める前に耳を傾けるべきである。これはわれわれ科学者が思いあがっているのではなく、現代が人類破壊の危機に直面しているから訴えているのだ。

坂田 日本は核兵器の脅威を認識して、他の国の人々をほとんど知っていない。核兵器禁止の推進は、統一して組織化する必要がある。浜井 広島は原水爆禁止運動に保守、革新はない。また原水爆禁止運動は、左翼だ、という偏見はない。日本国民全体が自主性を持ち、核兵器の脅威を認識し、自主的に行動することが必要だ。

©2022 YHAL, YITP, Kyoto University  
京都大学基礎物理学研究所 湯川記事館 中村

# 湯川 博士



湯川秀樹氏 京大基礎物理学研究所長  
久野収氏 評論家  
湯田大阪本社編集局長 司会

湯川 十九世紀から二十世紀にかけて電気とは何かがわかっていくと、それは生活を便利にしてくれるもので、苦もないうわけてはなすがラスの面が大会かた。その時代には、科学の成果をたれかどう使うかという問題は深刻なものではなかった。だが原子物理学が発達するにつれて形勢は変わ

それほど簡単でなくなってきた。核兵器がとんとん威力なものになっていくと科学者は知っていき。そのときに言ったらららるる心配といわれたことを考えるのが大事なことになったわけだ。先づきの危険がわかっていくのは、原子力の問題が出てきたのは一九三〇年代の終わりからだが、それとともに新しい事態が始まった。学者の方も時代に対応して考え方を改めてゆかねばならぬ。時代は決定的に変わったのだ。

# 人類共存の道徳を

## 久野 民衆の幸福めざして

心しなからやっていたが、その言った。たとえは工学だが、その目で死んだ。英国では一時、放射能標識つきつめていけば人類の破壊にはフィルターをつければ無害と信じていた。そのときとて、それを見せつけにリックは七十才の老人だったが、フィルターで毒を防げるものから心配しない」と英国の新聞に強く訴えていたことを読んだことがあった。このケースは危険がみえていないとされたが、いまはそうではないとされている。これは、その危険がみえていた。これは、その危険がみえていた。これは、その危険がみえていた。

カニズム、民主主義のメカニズムだ。わずかながらも平和に貢献し、お互いの幸福になるようにできる。お互いの幸福になるようにできる。お互いの幸福になるようにできる。お互いの幸福になるようにできる。お互いの幸福になるようにできる。

湯川 私かモラルというのは、昔からの善悪も結構だが科学技術をはじめ社会的メカニズム、人間の心理の研究の蓄積と結びついた高度の合理性に基いたものを考えている。その根本原理は「人類の全体的破壊をいかにして避けるか」ということ。これはもう議論の余地がない。人類の破壊がよるというものはヒロシマである。ヒロシマか、モラルかというとき、常識のある人ならモラルをとるだろう。科学にマッチしたモラルがあるだろう。根本にさかれば、人類の共存繁栄のためには必要で万国共通のモラルがあり得ると私は思う。

湯川 現在はいれと同じようなところにあるように感じられる。世界宗教の出てきたときと同じように高度な新しい形でこの普遍的な人類愛が生きていなければならない。久野 人類は万人同胞なのだ。いまや経済的、社会的な条件が変わって、隣から隣までつながる必要がなくなった。戦争さえしなかったら、人類の社会はもっとよくなるだろう。

湯川 現在はいれと同じようなところにあるように感じられる。世界宗教の出てきたときと同じように高度な新しい形でこの普遍的な人類愛が生きていなければならない。久野 人類は万人同胞なのだ。いまや経済的、社会的な条件が変わって、隣から隣までつながる必要がなくなった。戦争さえしなかったら、人類の社会はもっとよくなるだろう。

No. ....

祝電 その他

No. ....



電 報

ニニニタ ヒヤ \* ⑬  
イフイ 一三 トウキヨウ  
御慶祝  
ヒロシマ タケハラレ  
タケハラシレ  
ササキリヨカンキツケレ  
クシヤカイ

日本電信電話公社

電報

87

御慶祝

ニニニ

タヒヤ

\* 73

テ

73

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

タケハラシ  
ササキリヨカンキツケ  
イニカイカガ クシヤカイギ 殿

38.5.7  
分原電報電話局

ブセイカイラシユクスゼ ンメンク シユクトゲ  
ンスイバ クキンシノタメノリロントキコウケンヲキ  
タイシテイマス ニホンコクミンノハイワノイシヲフ  
ルイタセルヨウキカイノセイコウヲノバ ンデイマ  
ス ニホンガ ンスイキヨウセンモンイインカイ

No. ....

電

報

送信通過番号

着信番号



送信	オオトモレウカン	ガクセツノテンノメ	クシヤキヨウトカイキ	ササキホテル	ハケノハラシ	ヒロシマタケハラ	三ハミヤギ	一ニ五タ
時								
分								
送信者								
照合者								
受信								
受								
信								
月								
日								
年								

この欄の記載順序は次のとおりです。  
 第一行、局用番号・第三行、(種類)・字数・発信局・発信番号・(受付日)・受付時刻



この電報について疑問の点がありましたら配達局へお問い合わせください。

信第4号 日本電信電話公社

No. ....

電 報

送信通過番号

着信番号



U4

送 信	ア ン ギ ヤ ダ ン	リ ア ン ギ ヤ ラ ツ ツ	ノ シ ア ワ セ ラ イ ノ リ ケ	イ カ ロ ラ イ ノ リ マ ス レ ワ タ ク シ タ チ シ ユ ウ キ ヨ ウ シ ヤ モ ジ	セ ン ジ ン ル イ ノ セ イ メ イ ラ マ モ ル ア ナ タ ガ	ユ ガ ワ ヒ デ キ 殿	ニ ホ ン カ ガ ク シ ヤ カ イ キ 殿	ヒ ロ シ マ タ ケ ハ ラ 殿	一 ニ 八 サ ガ ア リ タ ユ ウ ビ ン	〇 七 一 タ
時										
分										
送 信 者										
照 合 者										
受 信										

この欄の記載順序は次のとおりです。  
 第一行、局用番号・第三行、(種類)・字数・発信局・発信番号・(受付日)・受付時刻

電話号  
 電話番号  
 対話者



この電報について疑問の点がありましたら配達局へお問い合わせください。

\* ヒロシマ大学がタケハラ殿

信第4号 日本電信電話公社

6月3日に  
 メッセージ

④

No. ....

# 電 報

送信通過番号

着信番号



送 信	〇ニ六夕
時	五〇キヨウトセキヅ
分	ユウヅ
送信者	一〇二四
照合者	セ八〇五八
受 信	殿

この欄の記載順序は次のとおりです。  
 第一行、局用番号・第二行（種類）・字数・発信局・発信番号・（受付日）・受付時刻

この電報について疑問の点がありましたら配達局へお問い合わせください。

ニホンノヒガ  
 トミノリマスヨウ  
 マエカ  
 マスサフロ

ササキホテル  
 マトバ  
 ヒロシマタケハラ  
 クシヤキヨウトカイギ  
 シヨセンセイ

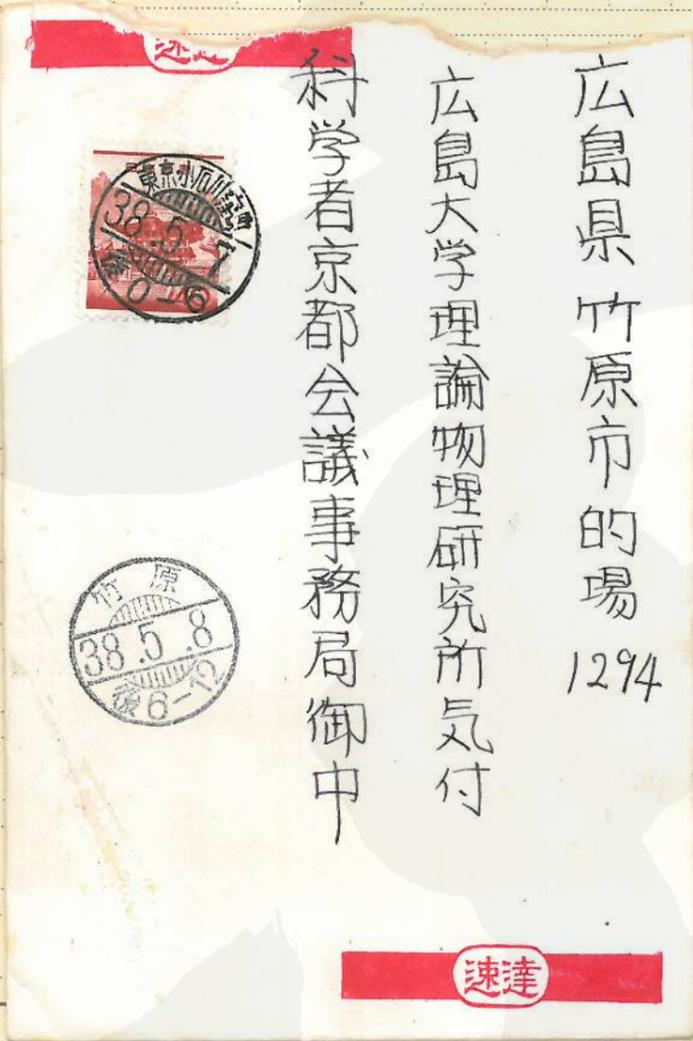


五月九、廿九、二八

⑧

信第4号 日本電信電話公社

No. ....



前略

第三回科学者京都会議に集まった科学者たちの「平和の創造」のための積極的な貢献に対して私達教育大学学生自治会の全学生は心から敬意を表し、連帯のあいさつを送ります。私達はそうした活動と固い連帯の下に、全面完全軍縮を実現するための運動を強かに展開したいと考えます。

前便でも明かしたように、私達は四月下旬からの「原子力潜水艦寄港反対、日本非核武装宣言、アジア非核地帯設置、軍縮と平和のための行動月間」の集約大会、科学者京都会議の報告集会を開きたいと考えています。三名の代表派遣に關する依頼につき、■その日付の訂正を行わざるを得ない状況が当方に生じました。次の日時にしたがって、必ず一、二名の代表を派遣されるよう重ねて要請致します。

五月二日(土)二時 東京教育大学内講堂

昭和三八年五月七日

科学者京都会議事務局 殿

東京教育大学学生自治会

現在、世界の全人類の最大の課題である、熱核戦争を未然に阻止し、恒久平和と軍備全廃の実現のために、科学者が積極的な貢献を果そうとしている事に対し、私たち東京教育大学学生自治会は、心からの敬意を表するとともに、連帯のあいさつをおくりします。

私たち自治会は、過去二年間、平和のための全学シンポジウム運動、教育大バクウォッシュ運動を展開し、学生として、平和の問題への接近を全学的にかちとり、日本の非核武装、軍備全廃を要求して運動してきました。

とりわけ、この期間、アメリカの原子力潜水艦日本寄港が日本の実質的核武装化と極東の全面的核戦略体制への転換をもたらそうとしている事に際して、私たちは重大な決意をもって寄港反対運動を推進してきました。私たちは、5月20日までを、平和と軍縮のための行動月間として設定し、原子力潜水艦寄港反対、日本非核武装宣言、極東非核武装地帯設置要求を中心スローガンにかゝり、学内署名運動、対政府アメリカ大使館抗

議行動を展用し、又教育大平和行進を成功させようとしています。

現在、日本の平和運動が情勢に対して有効な対処をなしていない中で、

私たちは科学者京都会議の貴重な努力を全面的に支持するとともに、私

たちがそこから学ぶために、報告集会をもちたいと思います。

来る5月17日、教育大学に於いて、学生、教授、職員を合めて、集会を予定して

おりますので、是非二名乃至三名の講師をおくって下さるよう、お願いいたします。

私たちはこの報告集会によって、より一層平和の内題を深め、平和のための運

動に名譽ある地位をしめたいと思っています。

できるだけ早い機会に当自治会に連絡して下さるようお願いいたします。

再び報告集会の件をお願いして、科学者会議の成功を祈ります。

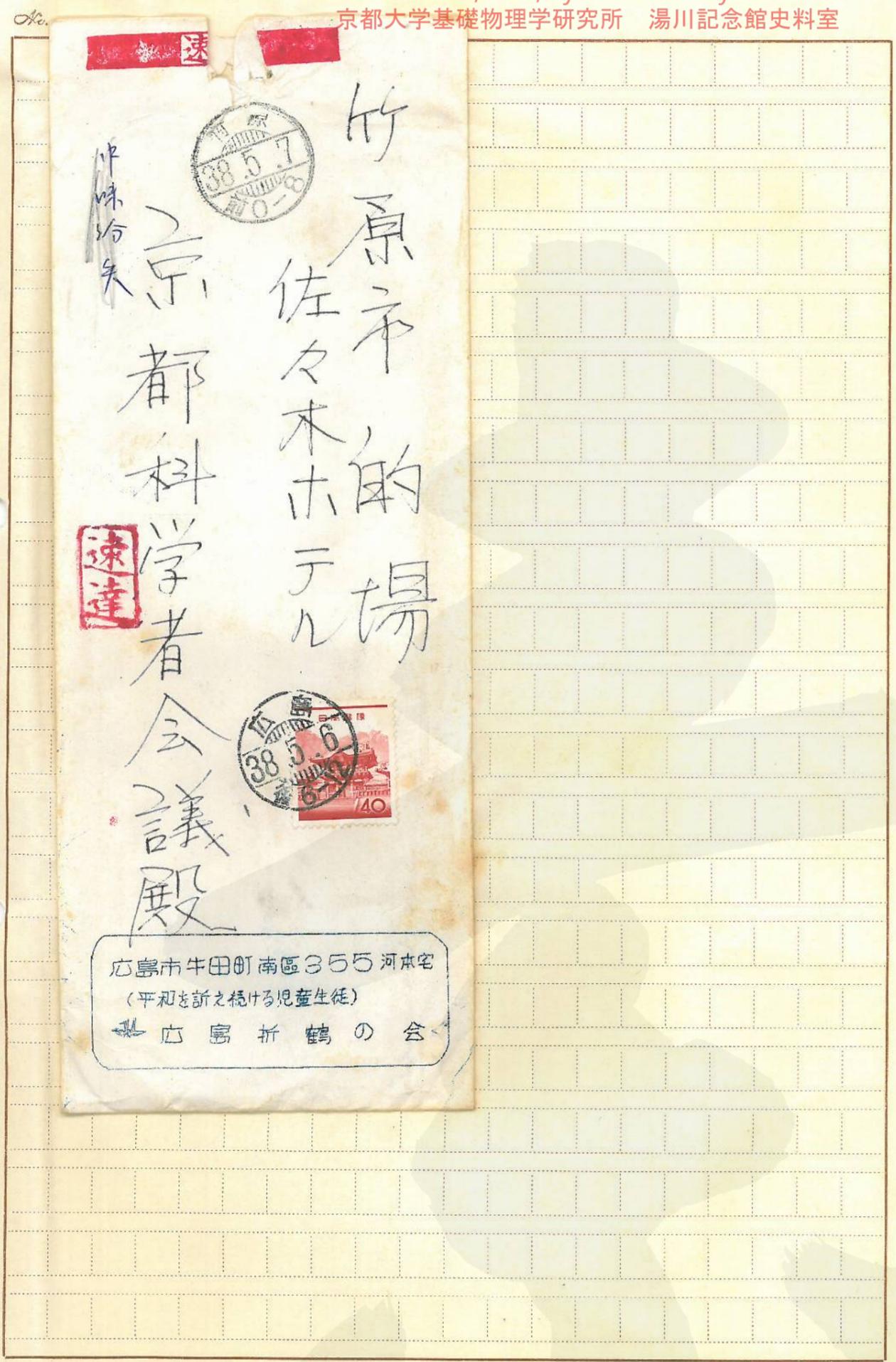
東京教育大学四学部学生自治

五月七日

科学者京都会議殿



KISANPO



速

中味冷矢

京都科学者会議殿

速



竹原市の場  
佐々木テル



広島市牛田町南區355河本宅  
(平和を訴え続ける児童生徒)  
共 広島折鶴の会

No.

年  
月  
日

尊敬致します湯川先生、朝永先生をば  
 いの、京都科学者会議の皆様お元気です  
 お忙しいお仕事の方皆様が平和のために  
 じっくりと会議をされることに對して、  
 平和を願う、玄島の児童生徒として心強  
 く思います。  
 私達玄島折鶴の会は五月五日子供の日  
 に「原爆の子の像除幕五周年玄島長崎  
 少年少女慰霊の集い」を行いました。  
 玄島市内の小中高校の生徒会代表二百  
 名と五十名の折鶴の会、会員並に御遺  
 族や在外在玄外国代表と共に私達は  
 二つの努力の約束を書いた折鶴の言葉

コクヨ 105

No.

年  
月  
日

左、玄島と長崎の先生や生徒の靈に  
ささげました。  
今迄の五年間私達はうまず、たゆまず、  
子供として出来ることをア代の会員は続け  
て参りました。  
しかし子供の私達の力は大変小さいので、  
私達の目の前にみる患者さんや御遺族  
の苦しみ、そして怒りをどうしても世界の  
平和のために多くの人々に知らせる  
いただきたいのです。  
どうか科学が人間を支配するのではなく、  
人間が科学を平和利用出来る  
ように被爆国の良識的な指導者の

コクヨ 105

